# 中野区教育委員会会議録

令和７年第２２回定例会

令和７年８月１日

中野区教育委員会

# 令和７年第２２回中野区教育委員会定例会

○日時

令和７年８月１日（金）

開会　午後　７時００分

閉会　午後　８時３５分

○場所

中野区役所７階　教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長　　田代　雅規

教育委員会委員　　伊藤　亜矢子

教育委員会委員　　岡本　淳之

教育委員会委員　　髙野　治人

教育委員会委員　　平本　紋子

○出席職員

教育委員会事務局次長　　石崎　公一

参事（子ども家庭支援担当）　　森　克久

子ども・教育政策課長　　神谷　万美

学校地域連携担当課長　　保積　武範

指導室長　　井元　章二

学務課長（教育委員会事務局次長事務取扱）

子ども教育施設課長　　原　太洋

中野第一小学校校長　　三宅　慶進

北中野中学校校長　　尾石　智洋

○書記

教育委員会係長　　藤井　玉枝

教育委員会係　　網野　愛子

○会議録署名委員

教育委員会教育長　　田代　雅規

教育委員会委員　　髙野　治人

○傍聴者数

２０人

○議事日程

１　報告事項

（１）教育長及び委員活動報告

①７月２５日　中学校長会との意見交換会

②７月２８日　令和７年度海での体験事業視察

③７月３０日　「みんなで囲碁を楽しもう！～小・中・高校生向け囲碁イベント～」

２　協議事項

①子どもの意見を反映させた教育活動（指導室・中野第一小学校・北中野中学校）

○議事経過

午後７時 00 分開会

田代教育長

こんばんは。定足数に達しましたので、教育委員会第 22 回定例会を開会いたします。

本日の夜の教育委員会は、夜間に教育委員会を開催することによりまして、昼間、教育委員会を傍聴することが難しい方にも、教育委員会を傍聴できる機会を設けるために実施しております。会議の進行につきましては、通常の教育委員会と同じように進めてまいります。

初めに、傍聴の許可についてお諮りをいたします。教育委員会の会議の傍聴人の数につきましては、教育委員会傍聴規則第３条により 20 人以内と定められておりますが、教育委員会が認めた場合は 20 人を超えることができることとされております。本日はあらかじめ 20 人を超えて傍聴することを認めたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議ありませんので、20 人を超えて会議を傍聴することを認めることに決定いたしました。

それでは、議事に入ります。

本日の会議録署名委員は、髙野委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりです。

＜教育長及び委員活動報告＞

田代教育長

それでは、日程に入ります。

初めに、報告事項に入ります。

教育長及び委員活動報告について、事務局から報告をお願いします。

子ども・教育政策課長

それでは、教育長及び委員活動の報告をいたします。

７月 25 日、中学校長会との意見交換会、田代教育長、伊藤委員、岡本委員、髙野委員、平本委員が参加されました。

７月 28 日、令和７年度海での体験事業視察、７月 30 日、「みんなで囲碁を楽しもう！～小・中・高校生向け囲碁イベント～」、いずれも田代教育長が参加されました。

報告は以上です。

田代教育長

各委員から活動報告などがございましたら、お願いいたします。

伊藤委員

７月 25 日の中学校長の先生方との意見交換では、本日と同じ子どもが主になった活動について、各校の取組をお聞きすることができて大変有意義でした。各校のそれぞれの工夫があったように思いますので、ますますそういった工夫が交換されて、よいものになっていくよいなと思いましたし、また年数を経て積み重ねていくことで、さらに発展するのではないかなということを感じました。

ほかに、委員としての活動ではないのですが、７月の半ばに行われました国際学校心理学会でポルトガルに行ってまいりました。毎年やはり世界の中の学校が、どんなことに困っていたり、課題になっているかがよくわかるのですが、今年の大きなこととしては、学校を挙げて、学校全体で予防ということに取り組む。また子どもたちのメンタルヘルスの増進ということに取り組むというような研究が非常に増えておりまして、先生方のメンタルヘルスも含めて、学校全体としての取組というのが世界的にも求められていることがよくわかりました。

以上でございます。

平本委員

私も、７月 25 日の中学校長会の先生方との意見交換会に参加させていただきました。伊藤委員からもお話がありましたとおり、各学校の特色に応じた活動内容を私たちも直接知ることができまして、大変有意義な意見交換会でした。

その中で、より当事者意識を広げるために、使い道を学年ごとに考えることとして、実際に学年単位で活動内容を考えていることで、フレキシブルにできたというようなお話もありましたのが大変印象的でした。できるだけ多くの子どもたちが意見を表明して、当事者意識を持って活動に参画できるように、プロセスを工夫していただいていることをありがたく思いました。

また、全体として、特別ゲストをお呼びして、講演をしていただくというようなスタイルが多かったように見受けられるのですけれども、いずれも子どもたちの意見がきちんと反映されて決定されたということであれば、どのようなスタイルでもそれ自体はよいのではないかなと思いました。

他方で、子どもたち自身がまだ全く知らないやり方とか分野については、そもそもやってみたいなという意見を持つことも難しいという背景はあると思いますので、伴走していただく先生の側から、子どもたちに対して様々な事例の共有ですとか、フェスタあるいは地域交流の事例もあるよということで、選択肢を共有していただくことが、子どもたちの意見の幅を広げていくことにもつながるのではないかなと思いました。

以上です。

岡本委員

中学校長会との意見交換会で、お２人の話につなげてなのですが、印象的なお話が幾つかありました。基本的にアンケートをとって、皆さん、生徒さんから意見を募って、生徒会でどうやっていくかを決めていくというのがスタンダードだったのですが、他方で、ちょっとその限界もあるかもしれないというお話がありまして、今後はワークショップ形式にして意見をすり合わせていくこともやってみたいというお話があったりしました。

あと、予算の使い道として、子どもに伴走支援をしてもらうための民間企業を招聘するために予算を使うというお話もあったりして、直接、対象に対してではなくて、子どもを伴走支援するための使い道はすごく斬新だなと思って、ぜひ今後の展開を知りたいなと思いました。30 万円という枠で何ができるのかということを子どもが学ぶ機会としても、とても貴重だったのだなという気づきがありました。

以上です。

髙野委員

私も 7 月 25 日の中学校長会との意見交換会に参加させていただきました。そこでは、やはり 30 万円の使い道として、昨年度は各校、報償費ということで講演会だけだったのですけれども、今年度に関しては報償費もしくは一般需用費としても使えるということで、各校の特色がそれぞれ出ていて、よかったと思います。その使い道も生徒会中心となって、各校、生徒たちで決めるということで、皆さんおっしゃるとおり、岡本委員がおっしゃるとおり、伴走の業者の人たちに手伝ってもらうという形もありかなと感じました。以上です。

田代教育長

ほかに各委員から追加でご報告はございますか。よろしいですか。

それでは最後に私のほうから。

７月 28 日、海での体験授業の視察に行ってまいりました。桃園第二小学校の山田校長先生、啓明小学校の遠藤校長先生、平和の森小学校の山崎校長先生、中野第一小学校の三宅校

長先生の４名の校長先生も参加してくださいました。校長先生が来てくれたことで、子どもたちも喜んでいました。校長先生も子どもたちと一緒に泳げて、とても楽しそうでした。

次に、７月30日に、教育委員会が主催をして中野区役所１階のナカノバで、小・中・高校生向けの囲碁のイベントを実施しました。指導碁では、中野区出身の上野姉妹、お姉さんの上野愛咲美さんは、現在、女流名人を含む数多くのタイトルを獲得し、昨年は呉清源杯世界女子囲碁選手権で、日本人で初めて優勝をしました。妹の梨紗さんは、女流棋聖のタイトル保持者でもあり、ＳＥＮＫＯ ＣＵＰワールド碁女流最強戦でも優勝しました。子どもたちも、上野姉妹や囲碁の有名なプロに、碁の指導をしていただき本当に喜んでいました。最後には抽選会もあり、当選した子どもたちは上野姉妹からサイン入りの色紙をプレゼントしていただき大変喜んでいました。とてもよいイベントだったと思っています。

その他、発言がなければ、活動報告を終了いたします。

＜協議事項＞

田代教育長

次に、本日の協議事項「子どもの意見を反映させた教育活動」についての協議に入ります。協議終了後、会議を一旦休憩し、協議テーマやその他教育に関して、傍聴の方のご意見をいただく時間を設けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、子どもの意見を反映させた教育活動を協議いたします。

初めに、指導室及び小学校から１校、中学校から１校、本件について説明を受けます。それぞれの説明の都度、教育委員の皆様からご意見を伺い、協議を進めてまいります。

それでは、指導室長からお願いいたします。

指導室長

それでは、私から本日の協議のテーマであります「子どもの意見を反映させた教育活動」についてご説明をいたします。

なお、これまでも、教育委員会ではこのテーマで協議を深めておりますので、教育委員の皆様にとっては繰り返しの説明になることをご了承いただければと思います。

今、中野区の全区立小・中学校は、これまで以上に子どもたちの意見や考え、思いを形にできる場となるよう、改善を図っているところでございます。

こちらは、昨年度の区の学力調査で行った意識調査の中の二つの設問の結果になります。上段が授業で習ったことをふだんの生活と結びつけて考えているという設問。下段は自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動に、進んで取り組んでいるという設問

でございます。残念なことに、この二つの設問について、多くの学年で全国平均を下回っております。

この結果から、中野区の子どもたちには授業で学んだことを日常生活に結びつけたり、自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動に取り組んだりする姿勢、つまり「学びに向かう力」にやや課題が見られると言えます。

この課題を受けまして、中野区教育委員会といたしましては、学校が、子どもたちの意見を生かして特色ある教育活動を実施することで、これまで以上に子どもたちの達成感、成就感、自己肯定感等を実感させることができ、その結果、子どもたちの「学びに向かう力」を高められるような学校づくりを進めることができると考えました。

第４次教育ビジョンにおきましても、「中野区子どもの権利に関する条例」の趣旨を踏まえ、子どもの権利について、児童・生徒が知る機会を設けるとともに、自分の意思や考え、思いを表明する取組を充実しますと位置づけております。子どもたちの意見や考え、思いを形にできる学校づくりを進めることが、子どもとともに進める学校づくりとして、子どもたちの学校経営への参画を促すことにつながっています。

具体的な取組では、子どもの意見を反映した教育活動として、小学校１校当たり 20 万円、中学校１校当たり 30 万円を配当し、子どもたちが企画・提案した行事等を各校で行っています。

例としましては、ある中学校が国境なき医師団による講演を企画した流れになります。生徒会が中心となって、テーマを話し合い、講師への依頼・連絡、当日の運営、振り返りを行ったことで、子どもたちの「やってみたい」「こんな学校にしたい」という気持ちを実現し、主体性を育むことができました。そのほかに、小学校では、子どもの発想を生かしてクリスマスコンサートを行ったり、子どもたちが区長にお話を伺うなどして、作詩し、楽曲を作成したりするなどの取組が行われました。中学校では、人権活動が盛んに行われている学校で、東日本大震災の被災者を招いて講演会を行ったり、世界で活躍するトップアスリートを招いて講演会などを行いました。

また、子どもの意見を反映した学校行事といたしましては、体育祭の種目で、子どもたちの意見を生かしたオリジナルの種目を実施している学校も増えてございます。こちらはある中学校のオリジナル種目の一例ですが、自分たちで決めた種目に取り組むことで、前向きな姿勢が見られ、楽しそうに競技を行っている様子が見られました。

学校は子どもの意見を反映した授業づくりにも取り組んでおります。授業改善の視点と

しましては、興味・関心を引き出す工夫、児童・生徒による学習課題を設定、児童・生徒による学習内容や学習方法の選択、振り返りの工夫などが挙げられます。

最後になりますが、この後、各学校からより具体的な取組を報告させていただきます。ご参会の皆様におかれましては、この報告と併せて、本区の子どもの意見を反映させた教育活動につきまして、ご理解をいただき、協議を深めていただけますと幸いです。

ご清聴ありがとうございました。

田代教育長

続いて、中野第一小学校から説明をお願いいたします。

中野第一小学校校長

ただいまより、子どもの意見を反映させた教育活動について、ご報告させていただきます。

私は、中野第一小学校長の三宅と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、中野第一小学校について、簡単にお話しさせていただきます。本校は、明治８年（1875 年）、今から 150 年前に開校した桃園小学校と、昭和 11 年（1936 年）開校の向台小学校の二つの伝統ある学校を統合し、平成 31 年（2019 年）４月１日に開校した開校７年目の学校となります。令和３年４月１日に、旧桃園小学校跡に新築した校舎に移転してまいりました。

通常級 25、特別支援学級３、合わせて 28 学級、児童数 811 人と、区内で３番目の規模の学校でございます。家庭数 657 で、ＰＴＡ加入率もほぼ 100％で、地域からも家庭からも支持される、大きく支えていただいている学校と言えます。写真奥に都庁舎も見え、人工芝の緑のきれいな色も輝いております。中野坂上にある立地にも、環境にも恵まれた学校でございます。

今回、子どもの意見を反映させた教育活動について、子どもたちと考える機会をいただきました。本校の目指す学校像「喜びを生み出す学校づくり」に迫ることも踏まえ、児童に対して「～あなたの夢をかなえますプロジェクト～」と題して取り組むことといたしました。

「～あなたの夢をかなえますプロジェクト～」を行うに当たり、児童会の児童に聞いてみました。そうしましたら、全児童一人ひとりの夢を聞いてみたいという子どもの声が挙がりました。811 名もの夢を聞いて、まとめることができるか、不安でもありましたが、全児童に対しアンケートをとることとしました。

アンケートをとりましたら、ごらんのように、大谷翔平選手と話してみたい、学校で鬼ごっこしてみたいなどの意見もありました。低学年の児童からは、校内放送、お兄さん、お姉さんがしているみたいなことをやってみたい、動物に癒されたい、空を飛んでみたい、でっかいシャボン玉をつくって中に入ってみたいなど、本当にかわいらしい夢も出てきました。与えられた予算内で実現できそうなことを児童会の子どもたちと一緒に考えた結果、「プロの歌手と一緒に歌ってみたい！」を、今回の「あなたの夢をかなえる」ということとしました。

後日、結果の発表をリモートで行い、どの児童も自分の夢がかなうことを、わくわくドキドキしながら発表を聞いていました。プロの歌手と一緒に歌ってみたいという夢をかなえるという発表をしたところ、どの児童も喜んでくれて、ほっとしたところです。この後、児童たちからは「プロって誰が来るの？」「どんな形で一緒に歌を歌うの？」など、疑問を持ちながら、どのような夢がかなうのか、わくわくしながらその日を待つこととなりました。

その日は12月９日、プロとして活躍されている声楽アンサンブルのＪスコラーズの皆さんによるクリスマスコンサートとして、全児童の前で実現することとなりました。

当日は、田代教育長、井元室長をはじめ、多くの地域の皆様にも同席いただきました。まず、Ｊスコラーズの皆さんから、ミュージカル「アニー」のテーマソング「Ｔｏｍｏｒｒｏｗ」や「おもちゃのチャチャチャ」「ドラえもん」など、低学年にも親しみやすい美しいハーモニーで歌っていただきました。

次に、児童の夢の実現となります。各学年からリクエストされた曲、例えば「ジングルベル」、クリスマスシーズンでした。「ジングルベル」だったり、「ビリーブ」、卒業式などでの定番です。「コスモス」など、プロの皆さんと児童は一緒に歌いました。大きな感動の中、最後に児童から感謝の言葉で締めくくりました。

児童からは、歌手の皆さんの声量に驚いた。歌手の皆さんと一緒に歌って楽しかった。さすがプロ！歌っていいなと感じた。ぼくも、歌のお兄さんみたいに上手くなりたいなどの感想が出ました。また、高学年からは、夢は誰かにかなえてもらうものではなく、自分でかなえるものだと教えてもらったとの感想もありました。今回の施策の意図に迫る感想もあり、教職員一同、大きな手応えを感じているところです。

その後、中野区立小学校の連合音楽会では、当時５年生、今の６年生ですが、立派に合唱を歌い上げました。連合音楽会の前に校内でも披露しました。多くの児童が感動し、聞き入っていました。

また、ある児童たちは学校を花でいっぱいにしたいという夢をかなえる計画を立て、チューリップを植えました。また、ある児童たちは地域の役に立ちたいという夢の実現のため、少年消防団の活動を頑張っている児童も多くいます。その他、多くの児童が夢を持ち、主体的に取り組もうとするきっかけを、今回の機会につくっていただいた、そのように感じているところです。

中野第一小学校の児童は、元気よく、かしこく、かっこいい子どもたちに育っています。今後ともますますのご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

田代教育長

ありがとうございました。ただいまの中野第一小学校の説明につきまして、教育委員の皆様からご意見やご質問をお伺いします。いかがでしょうか。

伊藤委員

とても楽しいご報告をありがとうございます。子どもたちのわくわくが伝わってくるなと思いました。

二つ、ご質問させていただきたいのですが、一つは、差し支えない範囲で教えていただければと思うのですが、いろいろな夢が出た中で、歌手というところに落ち着いたプロセスの中で、どんな学びが子どもにあったのかなというのをもう少しお聞きできたらと思いました。

また、1回目というか、この試みを通して、先生方がどんなふうに変わられたか、あるいは今後にこういう活動をつなげていく際に、どんなことを今度新しく試みたいと思われたか、そのあたりも併せてお聞きできたらと思いました。

以上でございます。

中野第一小学校校長

今、ご質問いただいた、歌手に決めた、そういった過程ということでよろしいでしょうか。実際、先ほどご紹介させていただいたように、多くの夢を子どもたちからアンケートで、頂戴しました。本当にかわいらしい夢から、大谷翔平選手、あるいはもっと当時の総理大臣を呼びたいとか、いろいろ様々意見があったかと記憶しておりますが、実際に子どもたちの意見と、ここは現実的な問題なのですけれども、予算あるいは招聘する相手の都合等も考えたところでのすり合わせは、正直いろいろ悩まされたところであります。

最終的には校長の判断で歌手という形にはしたところなのですけれども、実際に多くの

児童が本物の歌手、歌手といっても、例えば芸能人だとか、様々なジャンルの部分があったのですけれども、多くの子どもたちの夢をかなえたい。なおかつ、子どもたちが一緒に充足感、満足感を得られる活動としてどんなことがあるのかなと考えたときにコンサートと、一緒に歌うというところが、教育的な活動として一番子どもたちの達成感・満足感につながるかなと思って、最終的には校長として判断させていただいたところでございます。

二つ目のご質問、教師の変化等なのですけれども、すごく子どもたちが主体的に取り組めるような形が様々な場面で見られるようになったと考えております。と申しますのは、自分の夢を子どもたちに出させた。それに対して、かなったという一連の流れが、今回できました。自分が主体的に取り組むことで、夢ってかなう、自分が望んだことが、計画的に進んでいくとしっかりかなう。高学年からありましたが、夢というのは、誰かというか、自分でかなえるために努力するんだなというのを、当時、歌手、Ｊスコラーズの皆さんが来たときにそういったことをお話しされていまして、それからやっぱり学んだというところがありました。そういうところを子どもたちに学ばせる機会ができたということは、教師として大変大きな場面をいただくことができました。

そういったところは、先ほど指導室長もお話にありましたけれども、日頃の教育活動等で生かせる、あるいは生かしていくように意図的・計画的に進めているところであります。

ありがとうございます。

伊藤委員

ありがとうございます。何か絞っていくプロセスも、子どもが十分に参画できていたのだったらよかったなと思ったのが１点と。

あとは、夢の整理の中でご紹介いただいた中だけでも、学校で鬼ごっこをしてみたいとか、でっかいシャボン玉をつくり、中に入りたいとかは、もしかしたら予算の中で、追加でできたのかなという気もしていて。一つに絞る必要もなかったのかもしれないというか、何かもう少し、一つの打ち上げ花火ではなく、日常的な活動につなげていくというような方向性もお考えいただけるとよいのかなという感想を持ちました。

以上でございます。

岡本委員

この１回で終わらずに、次につながっている、変容が見られるという、本当にすてきなご発表をいただけたなと思いました。私も二つお伺いしたいのです。

全児童からアンケートをとろうとなったときに、やっぱり１年生から６年生まで、発達

の段階に相当幅があると思います。そのあたり、何か声の聴き方というところで配慮されたことはあるのかどうか。

もう一つが、プロの歌手に歌っていただくと決まった後で、運営面等で児童会の子どもたちや高学年の子どもたちが何か関わる場面があったのかどうか、そこについて教えてください。

中野第一小学校校長

ご質問ありがとうございます。まず、全児童にアンケートをとった経緯、あるいはその結果なのですけれども、子どもたちがこういった夢をかなえようと、そういったプロジェクトを子どもたちが提案したときに、811 人からとるわけですので、いろいろな夢が出てくるだろうなというのは、私も正直心配していました。

ただ、子どもたちの希望で、誰一人取り残さず等、ちょっとキャッチフレーズ的なところもありますけれども、やはり誰一人として取り残すことのない、全児童が関わるというところを大命題にしたいというところからありました。先ほど伊藤委員からもありましたけれども、お話しいただいたとおり、もちろん夢は一つに限らず、様々な場面で取り組んでいくということも一つ考えられたなというのは、今後の課題として考えるところであるのですけれども、まずその与えられた 20 万円というお金で、どこまで子どもたちの夢をかなえられるかと考えたときに、様々、コストもあるのですけれども、今回、歌、プロの歌手というところに至るまでは、教員だけで決めたのではなく、子どもたちも、もちろん関わっていて、子どもたちも取捨選択しながら決めていったところはあるのですが、子どもたちもいろいろな夢の中で迷いながら、「ああ、この夢をかなえてあげたいな」という、取捨選択というか、悩みなんかもあったのも、正直事実です。

ただ、やっぱり一つに絞って、一つの機会としてやろうということは、学校の都合、大人の都合ではあったのですけれども、そういった中で子どもたちはしっかり考えながら、プロの歌手と一緒に歌おうと決めました。そのかわり、どの子どもたちも関われるように、各学年で決めた、「歌いたい曲を、希望を募って、どの子も歌える、どの子も参加できる」というところには、こだわりながら進めていったところであります。

結果、811 人全員が体育館で歌うことができたというところには、夢の実現に大きくつながったのではないかなと考えているところです。

岡本委員

運営面で何か子どもたちが関わる場面はありましたか。

中野第一小学校校長

当日、小学生でありますので、実際に何かしら、歌手の人の折衝であったりとか、接待であったりとかというのは、教員でやった部分は多くあるのですけれども、例えば当日の司会では、児童会が担当させていただきながら、司会をさせていただいたりとか、感謝の言葉であったりとか、そういった部分では、子どもたちなりの発想、子どもたちなりの発表をさせていただきながら、子どもたちの思いを伝える場面ができたのかなと考えているところです。

以上です。

平本委員

ご報告ありがとうございました。まず結果発表のところなどで、リモートでみんなの前で実施して、みんながわくわくして聞いていたプロセスなど、全体的なプロセスを学校全体ですごく楽しむ工夫をしている点も、大変よいなと思いました。

あともう１点、今回の活動が、中野区連合音楽会などの別の活動にもつながっているというお話は、大変いいなと思いました。今の質疑応答の中で、私も気になっていた、どの子も参加できる形になっているかというところは、大変こだわって取り組んでいただいたということが今よくわかりましたので、その話もとてもよかったなと思います。

私のほうで質問が２点あります。

１点目は、子どもたちが、主に児童会を中心に進めていただいたと思うのですけれども、今回のイベントを踏まえた反省というか、逆にこういう点はよかったとか、こういうことは改善できるかもしれないというようなフィードバックというか、みんなでまた見直して話し合う機会をもし持っていたとしたら、どのような形になっているか、教えていただきたいと思います。

また、大きなイベントという形だけではなくて、日々の授業とか学習の中で、今回の活動の取組が生かされていると感じる場面などがもしあれば、教えていただきたいなと思いました。

中野第一小学校校長

ご質問ありがとうございます。反省、フィードバックについて、児童会活動の中、委員会活動の中の一貫としてやらせていただいております。子どもたちからは今回のコンサートが終わったところで、例えばこんな歌も歌いたかったと。実際のところ、本校の校歌などは、私が言うも何ですが、大変すてきな校歌で、ぜひ校歌を最後に歌いたかったなんていう

声も挙がったところでした。プロの歌手が歌うとこんなふうになるんだなというのを私自身も聞かせてあげたかったし、子どもたちからも反省点が出たところでした。そこは、教員が、こちらがもう少し配慮すればよかったなというところは反省です。子どもたちからは、今回、歌ということで決まったことに対してはよかったという反省で、またぜひ２回目、３回目、引き続きやりたいなという声も挙がったところでした。

あと、今回の行事が日々の学習にどのように生かされているか、という平本委員からのご質問でした。実際に子どもたちは何でも主体的に取り組めるような様子が見られるようになったと私自身感じているところです。どうしてもやっぱり発達段階であったりとか、クラスの状況であったりとかがあって、担任が疲れたりとかいうような場面等はあったのですけれども、本校は、昨年度は、どの教員も頑張ってくれて、一つの学級も、いわゆるメンタル面で課題を抱えるような学級はありませんでした。28 学級全クラスが、最後まで担任と八百有余名の子どもたちと一緒に終業式まで迎えることができたというのは、今回のこの事業等を踏まえて、主体的に頑張れば、子どもたちも、かなうのだなというのを感じてくれたからこそ、担任も一緒に最後まで楽しく、有意義な学校ができたのかなと思います。

令和７年度が始まったところなのですけれども、当然本年度もどの学級も、どの教員も、メンタルあるいはいろいろなことで、若干の課題はあるものの、一つの学級も欠けることなく、全教職員４月当初からの職員組織が欠けることもなく、今のところ進んでおりますので、これを３月 31 日まで継続し、子どもたちと一緒に豊かな学びを進めていくというところが、今回のこの事業から引き出された成果であるのかなと、校長として感じているところであります。

以上です。

髙野委員

大変参考になる発表をありがとうございました。特にコンサートなのですけれども、プロのコンサートで、ただ歌を聞くだけでなく、一緒に歌うという主体性を持ったコンサートであって、非常によかったと思います。特別支援学級のお子さんたちも一緒に歌うことができたということでよろしいでしょうか。そういう子たちも一緒に歌えるすばらしいコンサートだったと思います。

質問なのですが、連合音楽会とかがあるということで、やはり音楽に対しての親しみを持っている児童さんが多かったということなのでしょうか。

あと、もう１点が、最後のスライドの花壇の整備とか、消防団の活動というのは、希望者

というか、任意で児童さんだけが参加してということで、主体的にやられているのでしょうか。

以上２点です。

中野第一小学校校長

ご質問ありがとうございます。特別支援学級のひまわり学級の子どもたちは22人おりますが、全員が参加しております。各学年に入ってという形になります。

今のご質問の連合音楽会、子どもたちは親しみを持って、それこそ主体的に、積極的に取り組ませていただいたところです。ただ、中野区は小学校が20校ございますので、年間20校が一気に集うということができないので、隔年でやらせていただいております。したがいまして、本年度につきましては、本校はこの連合音楽会に出るという機会がない、２年に１回しかないところではあるのですけれども、ただ、連合音楽会がなくても、例えば、学芸会あるいは展覧会等々、大きな文化的な行事等を各学校では計画的に進めておりますので、様々な場面で、子どもたちの自己有用感等を発揮する場面というのは設けさせていただいているところではあります。今回５年生が連合音楽会でしっかり発表できたのは、言うまでもなく今回のクリスマスコンサート等で学び得たことであったのは、大きな成果であると考えております。

次の花壇、消防団等の活動でございますが、特に何かしらこれをやってねとか、あるいはこういう消防団、地域の活動があるからここに参加してねなんていうことは、全く学校のほうでは声がけしていない、自主的な活動であります。したがいまして、子どもたちがしっかり心と体とを育みながら育っているなと、校長として感じているところであります。

以上です。

田代教育長

ほかに追加でご意見、ご質問はございますか。よろしいですか。

それでは、続きまして北中野中学校から説明をお願いいたします。

北中野中学校校長

よろしくお願いいたします。北中野中学校校長の尾石と言います。

まず、冒頭にありましたように先日、中学校長会と意見交換会をさせていただきまして、すでにご報告させていただいたこともありますが、その後の内容も追加して、ご報告させていただきたいと思います。

まず、本校、北中野中学校ですが、統合校ではなく、校舎はとても古いのですが、歴史と

伝統のある学校です。教育目標は、自ら考え、正しく判断し、実践できる人。自他を大切にし、社会に貢献できる人。健やかで人間性豊かな人ということで、それを一言にまとめさせていただき、よき社会人を育成する、そんな教育活動を行っていきたいと、考えております。その教育目標達成に向けて、今回の子どもの意見を反映させた教育活動を位置づけて、どのように取り組めるかということを、教職員並びに生徒と考えて実行しています。

概要は室長のほうからも説明がありましたが、中学生は30万円の予算をいただきました。今年度、決めるまでの過程としましては、生徒会の本部役員が中心となって、教職員との話し合いで決定をしました。30万円の予算の内訳なのですけれども、本校は、報償費は0円、一般の需用費の10万円、さらに備品代ということで20万円とし、昨年度のうちに決めました。

まずは、生徒の意見を取り入れるために、そして目的を明確にするために、先ほどの小学生とも同じなのですが、全校生徒から意見を、1人1台タブレットを持っていますので、フォームという機能を使いましてアンケート調査をしました。そうしましたところ、園児や小学生、要するに、近隣に住む将来北中に進学をするような子たちに、もっと北中を知ってもらいたい。また、地域の方々、保護者に学校をもっと見てもらいたいというような意見が多くありました。これを実現するために、どう、何を行ったらいいかということを検討しようということになりました。

そこで、実施の内容の検討を行い、本校では過去にサイエンス・フェスティバルという、理科のフェスティバルをもともと行っていました。時期的にも夏休みに入ってすぐの時期に行ってきました。そのフェスティバルを「北中フェスティバル」という形で行い、それも今までは、教員と地域の方々主導で進めていた行事だったのですけれども、生徒の意見を反映させ、生徒が主催の行事ということで進めていけないかと。文化祭のような取組をしたいという子どもの意見を、この行事に置き換えられないかと生徒会本部役員とともに決定しました。

この内容につきましては、「読売新聞」でも掲載されていますので、後でごらんください。そのほかに生徒の意見を取り入れた活動としまして、生徒会として各行事の取組や、それから校則の見直しを、これは予算がかからないことなので、今回のところでは、紹介はいたしませんが、進めております。特に校則の見直しに関しましては、ポロシャツを導入することなどを考えて、生活しやすい環境をいかにつくっていくというのを生徒の意見を聞きながら、教職員と話し合いを進めて行っております。

次の資料は、先ほど言いました「読売新聞」で紹介された内容です。「予算の使途を決めるのは生徒」ということで、「社会への参画意識を育む」というようなことで、写真にも、これは生徒会本部が実際の運営をしている様子の写真が掲載されました。

そして次に、この「北中フェスタ」の取組につきまして、具体的に写真を交えて紹介させていただきたいと思います。まず、これは準備をしている写真になります。右側が水ヨーヨーです。こういったものを準備したり、それから左側はポスターを書いたりという写真です。

黒板を使っての案内板や、装飾をしている写真です。

実際に物品を購入して、こういったところに予算を使わせていただきました。生徒が実際に活動している様子です。

これが実際に実施している内容を、ポスターとして掲示しているところです。

これは、一番左側が立て看板、そして真ん中にポスター、さらにチラシなど、こういったもので運営をするということにしていました。

そして、各クラスを装飾して、案内板などを立てて、実施をしている様子です。

実際にこれは当日の運営の様子です。受付などを生徒が、近隣の小学生や園児たちを招いているところになります。この受付に関しては、生徒会の執行部で行っています。

このようにたくさんの地域の方に来ていただきました。これはヨーヨー釣りの様子です。中央委員会がこれを考えて、ブースを出した様子です。

このような形で、地域の子どもたちと、いろいろ教えたり、触れ合ったりという様子になります。

縁日みたいな射的、そういったものも用意されて、これも中央委員会のほうでブースをつくりました。

これは、カラフルカプセルというので、実際に運営をする中で、こういった運営をしたいというところを募ったボランティア生徒による活動になります。

プラスチックのアクセサリーづくりということで、物を買って、実際に体験をさせている様子です。

このように、小さな子どもにいろいろと丁寧に説明する様子が、たくさんいい写真がたくさんありました。

これはお箏体験になります。音楽室を使いまして、実際に学校にあるお箏を使い、ボランティアの生徒がこういった浴衣も着ながら、紹介・体験をさせています。

これは、併せて部活動の紹介・体験ということで、これはバドミントンの体験、さらに、ここは子どもが写っていないのですけれども、ラグビー体験をしている様子、左側の写真になります。　サッカー体験です。

これは外でやりました、野球体験です。

これは、父母と教師の会で受付を担当していただいている様子です。　さらに運営面ということで、近隣から来る自転車や、入り口の案内など安全面も考えて運営しています。

そして、この各教室で行っていること以外では、体育館を、先ほどの体験の部活動が終わった後にステージ発表しようということで、ステージ発表の準備をしています。有志による発表です。運営委員会は北中の生徒全員に向けてやりたいことを募集しました。これを運営委員がまとめました。様々な取組をしたいということで舞台を設けました。今回は、フォークソングやロック、そして、ゲストとして近隣の高校生バンドを呼んでのステージ、それからダンスにてプログラムを組みました。この際に、リハーサル等もやったのですけれども、生徒たちは運営も初めてのことで、なかなか慣れない状況でした。このとき、教育長も本校に来ていただいていたのですけれども、リハーサルの様子を見ていただいたのですが、なかなか時間どおり進まない状況もあったのですけれども、子どもたちで本当にやりたいことを見つけながら、運営を頑張ってやっていました。

これが、全体でロックバンドを組んでやっているステージの様子です。これだけたくさん、体育館がいっぱいになるぐらいの観客が集まり、本当に周りも盛り上がりました。声を出して、ステージ下でもペンライトみたいなのを回したりだとか、踊ったりというようなことをやっていました。

これは、近隣の武蔵丘高校のバンドを招待しまして、こういったステージをやっていただきました。やはり中学生と違って実力のあるステージを見せていただきました。借りた機材も、高校からお借りして、ロックバンドの本物のステージに近いような形になりました。

そして、このステージの後に、今度は校庭で花火大会を行いました。これも昔より、青少年育成上鷺宮地区委員会の方々が企画しているものとコラボさせていただいて、生徒会の実行委員とつなぎながらやらせていただきました。受付のここは安全面を配慮することから、地区委員会の方々に受付をお願いして、手持ちの花火を持ち込めるのですけれども、危険なものを持ち込まないようにしっかり管理をいただいて、安全に校庭でできるかということも確認していただいています。

下の写真は、この運営委員会の方々が安全面などを来校いただいた方々に説明をしてもらっています。まだちょっと日が暮れていないのですけれども、同時進行で、体育館では、先ほど説明しましたステージをやっているというような状況にあります。実はステージは、時間どおり終わらずにちょっと遅れてしまいましたが、臨機応変に対応でき体育館にいた生徒たちも花火に参加しました。その後、上の写真の手持ち花火、これは自分達で準備した手持ち花火です。それをこの大きな校庭で自由にできるということで、風向きや安全面も確認しながら、小さい子から中学生、保護者まで、こういった花火を楽しみました。

そして、フィナーレを飾ります打ち上げ花火です。これは消防団にも関わっていただきまして、私も今年初めてこの花火大会を見たのですけれども、こんなにきれいな花火が校庭で上がるのだと感動しました。この花火を、中学生も含めみんなが歓声を上げて見ていました。

このような取り組みより、今回の成果と課題です。成果は生徒の主体性の伸長、生徒同士の絆や北中への愛校心の伸長を、とても感じました。そして、北中のよさを地域に展開できたかということについては、その後のアンケートなどを見て確認していきたいと思います。また、招待した近隣の小学生が本当にすごくたくさん来てくれました。幼稚園生や保育園生、その保護者もいろいろなブースに顔を出してくれました。「北中フェスタ」のアンケートではとてもすばらしかったというようなご意見を多くいただいております。そして、入学予定者に向けた、北中の雰囲気を知り、入学に向けた不安解消というのは、まだ、わからないことなのですけれども、こういった機会を設けることによって、中一ギャップと言われているようなことも解消できるのではないかなということを実施した生徒自ら感じて、意見を言っていました。

そして、課題ですが、運営に関する改善点ということで、毎年、集客数や安全の配慮ということがあがります。地域の地区委員会の方々には、本当に特段の配慮をしていただいて、ここまで続いてきたことだと思うのですが、なかなか中学生だけではそういった視点にはまだ向けられず、「こんなにいっぱい来るんだ」というようなことを実感しましたという意見でした。なので、こういう経験を通じて、いろいろなことを学んでいくということも含め、運営面に対しては改善する必要があることも申し送りをさせ、話をしなければいけないと思っております。

そして次に、主催者の明確化ということで、学校・生徒と、保護者、地域、この三位が一体になっていますので、この役割を、明確にすることを今後もより有効にできたらなと考

えております。

そして、持続可能な行事としての地域と学校のつながり方を意識して、教職員も働き方改革等もありますが、そういったことも含めて、コミュニティスクールを活用して、今後もこの行事をもっと有効なものにしていきたいということが課題と思っております。

そして、何より、今回のこの生徒たちの様子を見ていて、行事を運営するということでの、楽しさや大変さというのがよくわかったということが大変価値のあることだと思いました。目的を達成するための工夫は、多く関わった生徒たちが感じられたと思います。そして、さらにその前後、準備期間と実施後の反省も含めて、開催するに当たってどう考えたらいいかとか、何をしたらいいかということを、苦労もしながら、考えてきたものが楽しめたのではないかと思っております。このように実施できたことに対しましては、教育委員会のほうで、このような予算をとっていただき、こういった機会を与えていただいて、とても感謝しております。

最後に、これは運営している生徒の様子の写真なのですけれども、とても自然に笑顔が出ている様子です。これは準備をしている写真なのですが、やっぱりこういった様子を教職員や保護者や地域の方々が見ることで、子どもたちも成長しているなと多く感じました。先ほども言いましたけれども、なかなか段取りがうまくいかなかったりや、それから時間どおりにいかなかったりなど、反省点も多くあるのですけれども、このようなことを生徒に経験させるというのは、とても有意義な行事です。

報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

田代教育長

ありがとうございました。ただいまの北中野中学校の説明について、教育委員の皆さんから、ご意見やご質問をお願いいたします。

伊藤委員

ご説明ありがとうございます。こういうすばらしい行事をできたということも、そもそもが、やはりこれまで何年かかけて地域での職場体験ですとか、それからサイエンス・フェスタのお話などもありましたけれども、生徒さん自身も、地域のほかの学校、団体の方との交流というのを大事なものとして思えるような体験が蓄積していたからこそではないかなと強く思いました。

また、先生方も、武蔵台小学校との小中連携ということを非常に惜しみなく、普段からしてきてくださっていると思いますので、そういったことも、地域の方の応援も含めて、こう

いったことに結実しているのではないかなと思いました。そういった意味で、やはり土壌をつくっていくというか、何年もかけて伝統というか、取組をいいものにしていく、浸透させていくということは、すばらしいなと思いました。

感想に近くなってしまうのですけれども、時間どおりにいかなかったり、いろいろな失敗をしたこと自体がすごくよかったのではないかなと思っています。やっぱり今の学校は、失敗がなかなか許されない学校ということも、そういったことも起きてしまうような状況があると思いますので、やはり失敗から学ぶ、失敗して、それをまたみんなで考えていくということそのものが、すごく大きな学びになるのではないかなと思いました。

そこで校長先生方との意見交換のときにもお尋ねしたことではあるのですけれども、やはり時間というのがこういったことをするには必要で、そのための時間の確保というのがすごく難しいのではないかなと感じております。そのことも踏まえて、時間ですとか、予算ですとか、もっとこういうことがあったら、さらに学校としても取り組めるなということがあれば、教えていただきたいと思いました。

以上です。

北中野中学校校長

ありがとうございます。やはり時間のことに関しましては、通常の学期中ですとやはり授業の中で何とかしなければいけないというようなことで、どうしても時間で切るということがあります。

今回のこの行事に関しましては、夏休み中のことですので、ある程度のゆとりというか、そういったものがあるかなと思います。なので、これからも生徒会活動、いろいろ中央委員会だとか、委員会活動、係活動が中心になると思いますので、放課後の時間とか、そういったところで、できるだけ時間にゆとりが持てるような学校運営を行って、子どもたちが考える時間を確保したいと考えております。

岡本委員

私も同様にとてもすてきな行事をしていただけたなと思いました。その上で、そもそもこれに決まったプロセスについてもうちょっとお伺いしたいのですけれども、全校生徒の意見、アンケートをとられたということで、恐らく多彩な意見があったのだと思うのです。その中でどうしてこの地域の方々や、保護者に学校を見てもらいたいという意見に決まったのか、そこのプロセスをちょっと教えてください。

あともう一つ、北中フェスタを生徒主催にしたいというご意向がそもそもあったのかど

うか。今回の予算をきっかけに、こういうことができるのではないかと思いついたのか、そのあたりも教えていただけますか。

北中野中学校校長

ありがとうございます。まず、決まった経緯なのですけれども、私は今年度から着任しましたので、昨年度アンケートをとっているというところからの経緯になりますので、直接私がではないのですけれども、やはり本校は、近隣に上鷺宮小学校、武蔵台小学校という２校がありまして、小中連携も深めて、その子どもたちにできるだけたくさん入学してほしいなという、教職員もなのですけれども、生徒たちも考えている状況があります。それは一つに、本校の校舎が古いというようなことだとか、そういったことも生徒たちにあるかもしれませんが、本当に見てもらったら北中はいいところだよというところを、とても生徒たち自身が感じていますし、その伝統なり、誇りというか、そういったものを伝えたいというのがありまして、これが第一番目に来たと聞いております。

北中フェスティバルをつなげていくということに関しましては、やはりこの予算を使えると決まったところで、昨年度は報償費だけでないと駄目だという話だったと思うのですけれども、それが行事だとか、いろいろな物品を買うというようなことができるということで、もともとありましたこの行事に関して、スポットが当たったということだと思います。

平本委員

ご報告ありがとうございました。今回フェスタという形にしたことで、準備の段階でも、かつ運営の段階でも、子どもたちの意見が実現していく場面や、自己効用感を得ていく機会というのがより多く設定されたのではないかなと、この写真を見て大変よかったなと思いました。また、今のお話を聞いて、なぜこの活動をやりたいのかという、「なぜ」とか理由の部分にも、子どもたちが向き合って議論しているということがわかりましたので、その点もとてもよいなと思いました。

質問になるのですけれども、今回、自分たちの学校だけで完結する活動ではなかったということで、地域との調整などの、そういった形のコミュニケーションもあったのではないかと思いますが、子どもたちが何か苦労していた点や、工夫していた点、気づきがあったと思われるような点がもしあったら、教えていただきたいと思います。

もう１点、伊藤委員からも逆に運営がうまくいかないという失敗の経験自体よかったのではないかというご指摘がありましたが、私も本当にその点はそうだと思っていて、失敗

から学ぶことは非常に多いので、よかったのではないかということと。逆に、つまり先生方のほうが失敗しないように、先回りするような伴走の仕方をしていなかったということもよかったのではないかと私自身は思いましたので、何か先生方の中で伴走の仕方において、工夫していたこととか、意識していたことがありましたら、それも教えていただきたいなと思います。

北中野中学校校長

ご質問ありがとうございます。まず、今回工夫したことというか、苦労したことに関してなのですけれども、やはりまずは来てもらう小学生などの子どもたちをどう楽しませるかというところが一番の目的だったので、こういうことをやったら楽しんでくれるかなというところを本当に考えていました。先ほど写真でも出てきていましたけれども、来たら、動線がうまくいかなかったら、迷ってしまって何か嫌な思いをさせるのではないかとか、あと、こういうものがあったら本当に楽しくいてくれるのではないかというような、今まで、これまでサイエンス・フェスタとかでやっていたことも、もうちょっとブラッシュアップをして、今度来る子どもたちにはこういうことをやらせたほうがいいのではないかという工夫を、本当に細かく考えていました。

苦労することとすれば、苦労というかわからないのですけれども、やはり本当に来てくれるのかなとか、昨年はこれだけいっぱいいたけれども、どうなるのかなとかいうところは、クラスでやっていたところはちょっと苦労している雰囲気がありました。そこで、客引きではないですけれども、校内を回って、「ここでこういうのをやっています」というようなことを、当日アナウンスなどもしていました。

あと、先ほどのステージに関しましては、やはりあくまでも学校でやるということも含めて、楽しみたいのだけれども、そこまで羽目を外してもいいのだろうかというような議論だとか、そういったこともありました。

具体的にいうと、スマートフォンを持ち込んだらどうなるかとか。なので、結局、スマートフォンは持ち込まないということで、ＳＮＳとかで拡散があったりとかということも心配したりしました。もちろん、地域の方との連携の中でそういった話し合いも出てきているところなのですけれども、子どもたちも自分たちの学校で、どのようにしたら本当に楽しめるかなということを考えていました。

それから、運営面の失敗というキーワードからの教員の伴走指導のことに関してなのですけれども、まず校長としては、もっと効率的に時間通りといくのかなという部分も正直

ありましたが、いろいろと形を変えているというところもあり、本当の意味で教職員もどういう形で運営をしたらいいのかというのを一緒に考えていました。伴走できていたというか、共有・共存していたというような感じです。その部分は、次年度に向け副校長と主幹と、安全面をやはり徹底しなければいけないかなというところは、運営をしている段階で思いました。特に生徒たちに口を出していくわけではないのですけれども、教職員や私たちも自ら足を運んで、安全面の確保をしたということもありましたので、その辺はまた来年の課題になっていくかなと思っております。

以上です。

髙野委員

ご報告ありがとうございました。私も、小学生の息子と一緒に北中フェスタに参加して、お友達と一緒に楽しんでいるようでした。

例年、サイエンス・フェスタを長年続けていただいていて、この北中フェスタもずっと長く続けていただきたいと思うのですけれども、以前サイエンス・フェスタのときに、小学生が非常に楽しんでいたと感じましたが、そういう小学生のときに楽しんだ児童さんが、今度、北中に入って生徒として、生徒会役員などになって、今度は自分たちで開催する側に回ったというお子さんがやはり多いかと思うのですけれども、そういったお話を校長先生は伺っているでしょうか。

北中野中学校校長

質問ありがとうございます。直接そこに関わったかということまでは聞いてはいないのですけれども、過去に自分たちもこういうことがあって、北中に来たことがあるということは聞きました。やはりそういった思いがどこかにあって、運営をしているのかなということは感じておりました。

髙野委員

ありがとうございます。長くやっていただいているので、昔楽しかったことが、今のそういう開催意欲とか、新たな企画につながっているのではないかなと思いますので、また続けていただければと思います。

以上です。

田代教育長

ほかに追加でご意見、ご質問はございますか。よろしいですか。

これで、指導室、小学校、中学校からの説明が終了しました。

ただいまの説明や協議テーマなど、全体を通して教育委員の皆様からご意見が何かございましたらお願いいたします。

伊藤委員

子どもたちの発想力とか、学校の可能性とか、いろいろなものがだんだんに花開いていくような試みかなと感じておりますので、繰り返しにはなるのですが、続けていくということもすごく大事だと思いますので、ぜひ今回体験されたこういうことが学校としてはよかったとか、さらにこういうことがあったらいいとか、いろいろなことを、学校ごとに、ご負担にならない範囲でお寄せいただけると、またこれからの継続になるのかなと思いますし、本当に子どもたちが体験したことが、参加者として体験したことが、今度は企画者としての体験になっていくということがとても大事だと思いますので、ぜひ自由に、先生方も楽しんで、続けていただけるといいなと思いました。

以上です。

岡本委員

いっぱい考えたのですけれども、あまり時間がないですよね。ちょっとかいつまみたいと思います。

指導室長の資料の中で、２枚目に「これまで以上に子どもたちの意見や考え、思いを形にできる場となるよう改善を図っていきます」とありまして、大事だと思います。これまでは形になるどころか、意見を表明する機会すら、もしかしたらなかったかもしれないですよね。自分がもやもやしたとしても、それをどう言っていいのかすらわからない状況に、もしかしたらあったのかもしれない。まずは表明できるという場をつくっていくことは大事だと思いました。

他方で、必ずしも形にできる場とならなくてもいいのかなとも、ちょっと思いました。自分の思いがあって、ほかの人の思いがあって、アンケートをとったらいろいろな考え方があって、自分がやりたいことと違うことがある。じゃあ、どうするかというところこそが、この予算の、学びのポイントかと思っています。自分ができているかといえばつらいところなのですけれども、全て自分の思いどおりにはならないです。対立するところにとどまらずに、いかに納得解を見出すかというところまで、一歩踏み込む教育活動になればなと考えました。

もう一つ、意見を表明する力なのですけれども、アンケートをとって、子どもが自分の考えを出します、通りませんでした、で終わっていては、意見を表明する力は育たないと思い

ます。そもそも意見を表明する力がなければ、意見を表明できない。この活動で年に１回意見を表明してください、はい、通りませんでしたで終わり、ではなくて、今日の校長先生方のお話にあったように、普段から意見を表明できる場をつくって、子どもが意見を表明できる力を培っていく。このことも非常に大事だと思います。そのきっかけがこの予算の教育活動だと私は思いました。

１点質問なのですけれども、報償費と一般需用費という費目なのですけれども、枠があると考え方が固定されてしまうのではないかなという気がしています。誰かを呼ぶのか、物を買うのか、さっきの生徒の伴走支援をするために予算を使いました、のような、ほかの中学校の校長先生のお話もありましたけれども、枠は必要なのですかね。どうなのですか。教えてください。

子ども・教育政策課長

この経費については、区の中の予算を計上しながらの支出となりますので、予算というのはあらかじめ一定の費目を決めながら、議会にお諮りしながら、確保しているものなので、使うときに変えるというようなことは難しい面があります。ただ、予算を決めるときに、もう少し丁寧にヒアリングをしながら、費目の工夫をしていくといったことはできることかなと思っております。学校の現場の先生方と、より意見交換をしながら、なるべく子どもたちがそのときにやりたいと言ったことは、実現できるような工夫については考えていきたいと思ってございます。

平本委員

私も意見を簡単に述べさせていただきたいと思います。このような機会というのは、子どもの意見表明の機会にとどまらず、話し合って物事を決定する方法を学ぶよい機会になるなということが、今回の発表で改めて感じられましたので、プロセスのところをこういう機会を設けていただいて、可視化して共有する取組というのは、今後も続けていただきたいなと思いました。

また、もう１点なのですけれども、予算の金額については、今日のご報告では子どもたちにも共有して、一緒にどう使うか考えていくという形をとれているのはとてもよかったと思いましたので、もしほかの学校で、あまり予算について話をしていないという学校があるようでしたら、逆に予算というものがあって、その中でどのように楽しむことができるか、どういう工夫ができるかというのも考えてみる、試行錯誤する機会として使っていただくというのも、よいのではないかなと思いました。

また、伴走支援のために外部のＮＰＯとかを利用するというお話もあったと思うのですけれども、新しい使い道ということで、利用する以上は、伴走支援の手法を先生方が学ぶ機会としても活用していただけることを期待したいと思いましたので、ぜひこれについては１校の教員にとどめずに、ほかの学校にもどういう形になったのかというのを共有していただきたいなと思います。

他方で、限られた予算をどこに使うかという部分については、先生主導での決定になってしまっていないかという部分については、子どもたちにも改めて意見を聞いてみてほしいなということは思いました。もしかしたら難しいことをやりたいので、外部の支援者が必要なのだと子どもたち自身が感じているのか、それとも逆に、別に外部の支援は必要なくて、先生たちと一緒にいろいろやってみたいと思っているのかと、いろいろな意見が本当はあると思いますので、子どもたちの意見を尊重できるような形で、先生方も一緒に伴走したり、共存という話もあってすごくいいなと思いましたので、そういった部分もぜひ共有していただいて、よい形で横の連携をしながら、子どもたちの意見を尊重できるプロセスをつくってほしいと思いました。

以上です。

髙野委員

皆様、委員の先生方の追加になりますけれども、今回のこの 20 万円、30 万円の予算をきっかけにして、児童・生徒さんが自分で考え、自分で決めるというのをやっていただいて、それ以外の予算がかからない項目、具体的に書いてあるものでは各行事、運動会の種目や校則の見直しなど、そういう自分たちで決められることを決められるようになっていただければいいかなと思います。

以上です。

伊藤委員

一つだけお聞きします。委員の方々のご意見をお聞きしていても思うのですけれども、これは誰かを呼ぶというと１回の意見表明ですよね。そこで意見が通らなかったらそれで終わりみたいになってしまいがちなので、教育委員会からの提示の仕方として、今回の北中フェスタのように、やっぱりこれはフェスタの準備の中で、何度も子どもたちがいろいろな形で意見を表明したと思いますし、それを聞き取ってということがあったと思うので、意見が表明できる学校づくりのためなので、１回ではない意思決定でやってほしいということも、もしかしたらサジェスチョンできるのかなと思いました。やはり先生方も一緒に

共存しながら、ということはすごく大きな意味があったと思っています。普段の教える人、教えられる人ではなく、ともに学ぶという、全然質的に違った関係になれたのかもしれませんので、そういうことも含めて、行うことを丁寧に学校として考えてほしいという提示の仕方も、教育委員会として可能なのかもしれないということを思いました。

以上です。

田代教育長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

それでは、時間もありますので、協議を終了するに当たり、私のほうでまとめさせていただきます。

教育委員会におきましては、令和６年度から子どもとともに進める学校づくりとして、子どもの意見を反映させた教育活動の実施に取り組んでまいりました。各学校では子どもたちが中心になり、話し合いを重ね、自分たちの意見を見える形としていくことに、子どもたちは喜びや楽しさを感じられたことと思います。教員は子どもたちの話し合いの状況に応じて、サポートやアドバイスなどの支援を行ってまいりました。本日、委員の皆様にいただいたご意見も踏まえながら、引き続き、教育活動の中で子どもたちの意見を反映させるための環境づくりに努めてまいります。

なお、今回は第一小学校と北中野中学校の取組を説明していただきましたけれども、その他の学校の取組はホームページで全て見られるようになっておりますので、ぜひ傍聴の方もごらんいただけたらなと思っております。

それでは、本協議を終了いたします。

ここで会議を一旦休憩して、傍聴の方々からもご意見などを伺いたいと思います。

それでは、会議を休憩いたします。

（休憩　午後８時 23 分）

（再開　午後８時 32 分）

田代教育長

会議を再開いたします。

本日開催しました「夜の教育委員会」のねらいとして、普段、傍聴に来られない方々からも直接ご意見を伺う機会を得ることがあります。本日いただいたご意見は、今後の教育行政を進めるに当たり、生かして行きたいと考えております。

それでは、最後に事務局から次回の開催について、報告をお願いいたします。

子ども・教育政策課長

次回の委員会は、８月 22 日金曜日午前 10 時から、区役所７階、教育委員会室にて開催いたします。なお、予定は変更になる場合がございます。ホームページにてご確認をお願いいたします。

田代教育長

ありがとうございました。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第 22 回定例会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

午後８時 35 分閉会